

2024年度 JICA 青年研修事業 実施概要

1. JICA 青年研修事業とその目的

開発途上国の青年層を対象に、それぞれの国で必要とされる分野における日本の経験・技術を理解する基礎的な研修を実施し、将来の国づくりを担う人材の育成に協力する事業です。その目的として、

1. 日本における各分野の基礎的な技術や制度に関する知識を習得する。
2. 日本の技術が発展した歴史、経験や文化、社会的な背景を理解する。
3. 対象国の開発課題解決への取り組みに資する知識・意識を向上させる。

が掲げられています。

2. 本研修の概要

- (1) 案件名：環境管理（都市環境管理）B
- (2) 受入国：スリランカ、モルディブ（Sri Lanka, Maldives）
- (3) 受入期間：2024年8月21日（水）～9月5日（木）【日本入国から出国まで16日間】
- (4) 対象者：中央または地方政府で環境保全に従事する行政職員
- (5) 受入人数：13名
- (6) 実施言語：英語
- (7) 実施機関：宇部環境国際協力協会、宇部市

3. スリランカおよびモルディブと宇部市の現状

(1) スリランカおよびモルディブの都市環境問題の現状

スリランカ民主社会主義共和国では、経済活動の活発化と生活様式の多様化に伴い、廃棄物の量が増加しており、特に都市部での廃棄物管理は重要な課題となっています。現在、自治体による廃棄物の収集は進んでいますが、その約10%がプラスチック廃棄物であり、その大部分は使い捨てプラスチックです。これらの問題に対処するため、スリランカ政府は「国家プラスチック廃棄物管理行動計画（2021-2030年）」を策定し、プラスチック管理センターの設立を含む一連の施策を実施しています。

具体的には、リサイクルセンターの建設やポイントカードシステムによる分別推進、廃棄物管理従事者の国家職業資格制度の設立など、廃棄物の収集や処理の質の向上を目指しています。また、JICAは「プラスチック管理能力強化プロジェクト」を通じて、スリランカ国内のプラスチック管理の現状を明らかにし、今後の精度向上を目指しています。このプロジェクトでは、自治体が回収するごみの中でプラスチックが占める割合や、リサイクル業者の調査結果などが報告されています。

さらに、スリランカ政府は、プラスチック廃棄物の削減と管理能力の強化を目的としたプラスチック・センター構想を推進しており、これにはデータベースの構築、モニタリングメカニズムの確立、アクションプランの策定、パイロットプロジェクトの実施などが含まれています。これらの取り組みは、スリランカの持続可能な廃棄物管理システムの構築に貢献し、国際的な環境基準に沿った管理を目指しています。

このように、スリランカでは廃棄物管理とプラスチック問題に対する意識が高まりつつあり、国内外の支援を受けながら、環境保全と公衆衛生の向上に向けた取り組みが進められています。今後も、これらの施策が実効性を持ち、都市環境の持続可能な管理に繋がることを期待されます。

モルディブ共和国は、インド洋に位置する約1,200の島々から成り、その美しい自然環境とは裏腹に、都市環境管理、特に廃棄物管理において深刻な課題を抱えています。国の発展と共に増加する廃棄物は、特に首都マレーを中心に環境汚染の主要な原因となっており、適切な処理施設の不足が問題となっています。かつて廃棄物の最終処分場として利用されたティラフシ島は、廃棄物による山が形成され、有害な煙を排出する状態にありましたが、現在はクリーンアッププロジェクトにより、その状況は大きく改善されつつあります。

環境面では、サンゴ礁の保護と海洋資源の持続可能な利用を目指しており、廃棄物管理の改善はこの目標達成に不可欠です。気候変動に関しては、モルディブは世界で最も影響を受けやすい国の一つであり、海面上昇による土地の喪失が懸念されています。このため、JICAをはじめとする国際機関の支援を受け、海岸保全や防災対策を強化しています。防災については、モルディブ政府は災害時の情報伝達システムの整備や、気候変動の影響を観測し、適応策を講じるためのモニタリング体制の整備に努めています。また、海岸線の侵食や自然災害から住民を守るためのインフラ整備も進められており、これには国際的な資金援助が不可欠です。モルディブは、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、環境保全、気候変動対策、防災の三つの分野で積

極的な取り組みを展開しており、国際社会からの支援と連携が今後も重要となります。

このように、スリランカとモルディブの都市環境管理における廃棄物管理の現状は、それぞれの国の環境や社会経済的な課題に応じた取り組みが進められています。スリランカはプラスチック廃棄物の削減とリサイクルの強化に注力し、モルディブは気候変動の影響を最小限に抑えるための防災と環境保全の取り組みを進めています。両国ともに持続可能な都市環境管理を目指しており、国際協力を含めた多角的なアプローチが必要でしょう。

(2) 宇部市と宇部環境国際協力協会の国際環境協力

戦後の復興期に大問題となった降下煤塵による激甚な産業公害に対して、地域の「産・官・学・民」四者が相互信頼と協調の精神で取り組み克服した活動が「宇部方式」といわれています。こうした地域ぐるみの自主的な取り組みが国際的にも高く評価され、宇部市は1997年国連環境計画（UNEP）からグローバル500賞を受賞しました。宇部環境国際協力協会（宇部アイカ）はこの受賞を契機に翌年1998年に設立され、宇部市と連携しながら「宇部方式」による地球環境保全のための国際協力を継続して進めています。これまで、JICA 青年研修事業、JICA 草の根技術協力事業、自治体国際化協力促進事業（モデル事業）などを受託し、海外から研修員を多数受入れ国際的な環境啓発活動を実施するとともに、市民に向けては環境国際セミナーや環境保全技術講座を毎年開催し、市民による国際環境交流や技術交流の取り組みを支援しています。

(3) 宇部市の環境情報技術

国際環境協力において宇部市に期待される環境情報技術は、公共或いは企業による大規模な処理リサイクルに関するもののほか、日常の廃棄物の分別収集の仕組み、様々な市民活動や就学児童への環境啓発活動など、広範囲な内容を挙げることができます。また、一般住民が各家庭で実施しているごみ分別やコンポストは身近な実践事例として非常に参考になっています。

このような認識のもと、宇部市行政は「宇部方式」の理念に基づく環境保全行政、地球温暖化対策や環境教育などの紹介に加え、2018年に内閣府から選定された「SDGs 未来都市」として持続可能なまちづくりの取り組みを紹介します。また、公共施設については、資源ごみ拠点回数施設、環境保全センター・リサイクルプラザ、最終処分場など、一般ごみの分別・回収・収集・処理の流れを現場とともに紹介説明します。

宇部市内外近隣の企業はそれぞれが所定の環境対策設備を設置し稼働するなか、様々な廃棄物関連事業を展開しています。一例として、広範囲に廃棄物を受入れ処理するセメント工場、容器包装プラスチックの再生樹脂化工場、食品廃棄物の飼料化工場、廃棄物固形燃料化工場など、先進的な事業工場を紹介します。また、医療廃棄物について、これを取り扱う病院とその処理工場を見学します。

このほか、自治会住民によるごみ分別の推進啓発や市民ボランティアによる様々な3R（リデュース・リユース・リサイクル）活動など、行政と市民が一体となった活動の紹介や、山口大学などアカデミア研究者による講義も実施します。

4. 本研修の目的

本研修は、宇部市の産官学民が協力して取り組む「宇部方式」の理念に基づいており、環境分野での行政機関、企業、市民の協働を含む宇部市の環境活動事例を基に、スリランカとモルディブの環境保全に従事する若手行政官の能力向上を目的として実施します。

- 1) 日本の地方公共団体レベルでの都市環境管理政策全般に関する幅広い知識の修得
- 2) 産官学民の連携による歴史的成果を学び、「宇部モデル」を理解し、様々な都市での環境問題の解決に応用する
- 3) 宇部市 SDGs 未来都市の取組みを通じて、SDGs に関する知識と理解を深める
- 4) 宇部市の廃棄物管理や市民の協力によるごみの分別・リサイクル活動について理解を深める
- 5) 環境管理の制度やその他諸問題について市の職員と情報や意見を交換する

研修員はこれらの学習成果を自国での業務に活かし、課題解決貢献することが期待されます。

5. 本研修のプログラム

本年度の研修は、2カ国13名の参加による英語対面研修を踏まえて、以下の点を配慮します。

- ・遠隔研修では体験できない現場視察や実践研修を積極的に取り入れます。
- ・ビデオ研修も活用し、限られた時間の中で深い理解を促進するよう努めます。
- ・講義は単方向でなく、ディスカッションを取り入れ、質問や議論のための時間を設けます。

- ・教材は英語に翻訳し、ビデオには英語字幕や解説音声を付加します。
- ・講師には各課題の専門家を招き、教材は最新情報を反映し、研修員の質問に適切に応えられるようにします。
- ・研修員には事前に教材を配布し、講義前に予習ができるようにします。
- ・研修員には積極的な質疑応答を奨励します。時間不足で質問が途中で終了した場合は、後日、講師の回答を英語に翻訳して文書で提供します。
- ・研修員が2ヵ国13名であることを考慮し、総括レポートの作成時にはグループ討議を行い、相互理解を深める機会を設けます。

研修プログラムの日程を下に示します。

区分	月日	曜	研修内容	講師
移動	8/21	水	宇部市到着、ホテルチェックイン ブリーフィング、プログラムオリエンテーション	JICA 中国, 宇部アイカ
開講 講義 実習	8/22	木	開講式、ジョブレポート発表会 講義「ときわ公園次世代エネルギーパーク」 実習「ときわ公園石炭記念館、植物園、野外彫刻」	JICA 中国, 宇部アイカ 宇部市環境政策課 宇部観光コンベンション協会
講義 視察	8/23	金	市長表敬訪問 講義「海洋プラスチックの問題点と対応」 講義「宇部市の環境保全行政と宇部方式の歴史」 講義「宇部市の地球温暖化対策と環境教育」 視察「宇部市市役所本庁舎と総合窓口」	大学教授・研究者・専門家 宇部市環境政策課 宇部市環境政策課 宇部市市民課、環境政策課
視察	8/24	土	視察「広島平和記念公園・資料館」 視察「広島市環境局施設部 中工場（ごみ焼却場）」 視察「厳島神社と宮島の自然環境保護」	
休日	8/25	日	(休日)	
講義 視察	8/26	月	講義「宇部市の廃棄物政策と回収・処理・処分施設」 視察「宇部市環境保全センター（焼却場、 リサイクルセンター）現場視察と Q&A」 実習「段ボールコンポスト」	宇部市廃棄物対策課 宇部市環境保全センター施設課 宇部市廃棄物対策課
視察	8/27	火	視察「混合廃棄物リサイクル、固形燃料化工場」 視察「プラスチック類の回収、再ペレット化工場」 視察「食品廃棄物飼料化、廃食油の燃料化工場」	(有)光田商店 (株)広島企業 (株)アースクリエイティブ
実習 講義	8/28	水	講義「小学校の環境教育と家庭でのごみ分別事例」 実習「市民による小学校児童へごみ分別教育活動」 講義「持続可能な発展のための環境保全の課題」 講義「サステナブルデザイン-持続可能な社会設計」	宇部市民（元小学校教員） 宇部市民団体（UNCCA） 大学教授・専門家・活動家 設計事務所代表・活動家
視察 講義	8/29	木	視察「セメント工場の廃棄物資源リサイクル」 講義「宇部市の防災と備蓄、避難所」 講義「SDGs 推進における ESD の位置づけ、 世界動物環境会議 in SDGs 未来都市 UBE」	UBE 三菱セメント(株) 宇部市防災危機管理課 宇部市連携共創推進課

視察	8/30	金	視察「宇部市（東見初）一般廃棄物最終処分場」 視察「宇部市（新町）資源ごみ拠点回収施設」 視察「(鵜の島)自治会ごみ回収コンテナ、 (鵜の島)ふれあいセンターの防災備品」 視察「医療廃棄物の処理」 視察「危険廃棄物・医療廃棄物の処分工場」	宇部市環境保全センター施設課 宇部市廃棄物対策課 宇部市廃棄物対策課 山口大学医学部附属病院 共英製鋼(株)
休日	8/31	土	(休日)	
視察	9/1	日	視察「東よか干潟ビジターセンター“ひがさす”」 (佐賀市内泊)	干潟ビジターセンター
視察	9/2	月	視察「下水浄化センターの消化ガス発電設備、 脱水汚泥堆肥化施設」 視察「バイオマスセンター“ルフラン”の生ごみ資源 化と廃校活用資源化まちづくり」	佐賀市下水浄化センター 福岡県みやま市バイオマス センター
講義 討議 纏め	9/3	火	web 講義「離島における海洋プラごみの焼却処理」 グループ討議、グループ総括レポート作成 個人レポート作成、研修質問票回答	(株)トマス技術研究所 JICA 中国, 宇部アイカ
討議 閉講	9/4	水	(グループ総括レポート翻訳など事務局作業) グループ総括レポート発表会、評価会、 閉講式	JICA 中国, 宇部アイカ JICA 中国, 宇部アイカ
移動	9/5	木	宇部市内ホテルチェックアウト 帰路移動	JICA 中国, 宇部アイカ

6. 本研修の達成目標

- (1) 宇部市の環境保全行政の概要、地域住民との連携及び環境教育、市内の企業がもつ環境技術、研究機関による環境保全研究などの基礎知識を習得します。
- (2) 「宇部方式」や日本のシステムと自国のシステムの相違を理解し、環境問題への具体的な対策を考察します。

7. 本研修の実施体制及び運営

独立行政法人国際協力機構(JICA)中国センターが宇部環境国際協力協会に研修業務を委託し、宇部環境国際協力協会が宇部市市民環境部環境政策課とともに研修業務を実施運営します。

8. 本研修の受入れ先

本研修は以下の大学、企業、行政関連施設、宇部市および宇部市関連団体および宇部市民の協力により実施されます。

- ・ 山口大学、山口大学医学部附属病院
- ・ (有)光田商店、(株)広島企業、(株)アースクリエイティブ、(株)オープンハウス、UBE 三菱セメント(株)、共英製鋼(株)、(株)トマス技術研究所
- ・ (佐賀市) 東よかビジターセンター「ひがさす」、佐賀市浄化センター、みやま市バイオマスセンター
- ・ 山口県環境保全事業団、宇部市市民環境部環境政策課、同廃棄物対策課、同環境保全センター施設課、同総務部防災危機管理課、同健康福祉部地域福祉課、同総合政策部連携共創推進課
- ・ 宇部観光コンベンション協会、宇部市地球温暖化対策ネットワーク(UNCCA)、宇部市小学校元教員

以上